

天栄山

てんえいざん

村のほぼ中央に位置する山。天栄村が誕生した40年前、村の名前は、この山にちなんで名付けられたものといわれています。

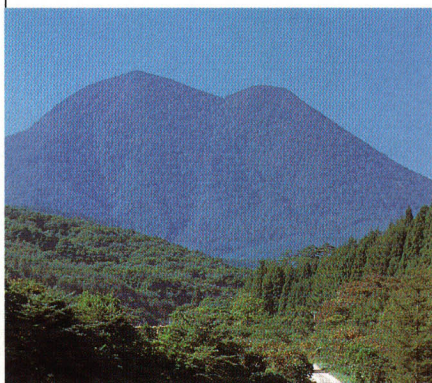
標高511mのどっしりした山は、その昔金山として採掘された歴史をもっています。



二岐山

ふたまたやま

昔、大男がこの山をまたいだという伝説の残る標高154mの村のシンボル。360度の眺めを誇る山頂は、一面のシャクナゲ群生地としても有名です。ブナとあすなろの原生林を求めてシーズンともなると多くのハイカーで賑わいます。



妙見山

みよつけんやま

上松本にある標高532mの妙見山はかつて男神山と呼ばれていました。今から約40年前、増見讃岐という人物が妙見仏を祭り、現在の山名になったそうです。

この山にも、ユーモラスな大天狗伝説が残っています。



丹波楯山

たんばたてやま

標高522m。山頂は大信村との村境。古くから信仰の山として地元の人々から親しまれています。また、この山には「朝日さす夕日輝くたんぼの根の下に黄金千杯二千杯」と、ロマンを秘めた埋蔵金伝説も残っています。



大徳坊山

だいとくほうやま

標高671m。昔、大徳坊という力持の坊主が湖を作ろうと権太倉山と天栄山の間にあつた大きな山を背負つたという伝説があります。山のなだらかな所が坊主の背中の跡で、山頂には縄をかけた跡が2ヶ所あるといわれています。



権太倉山

ごんたぐらやま

標高976m。奥州征伐に来た八幡太郎義家(源義家)の置き忘れた鞍が化石となって残っている言い伝えがありますが、発見できず「言の葉にかたく伝えし石もなぐ名のみなりけり権太倉山」という歌が伝えられています。

